

令和元年度 第11回石岡市ふるさと再生会議 会議録

1 会議の名称

令和元年度 第11回石岡市ふるさと再生会議

2 開催日時

令和元年11月18日（月）午後2時～

3 開催場所

石岡市役所 市本庁舎2階 201会議室

4 出席者 13名

5 議事録（要旨）

（1）開会

（2）会長挨拶

（3）議事

1）石岡市の現状と課題について

【会 長】 事務局より資料1の説明をお願いします。

【事務局】 資料1説明

【会 長】 ご意見、ご質問あればお願いします。

【委 員】 通勤・通学しやすい環境の整備が大きな課題。家から通いたいというニーズがかなり高い地域なのでこの課題に関しては重視して整備する必要があると感じる。結婚・子育ての件。異性との出会いの創出、お祭り以外にもいろんなイベントをできる環境が必要。民間の力でイベントを創出していくというのも大事かと思う。石岡市は地元になりたいというニーズがかなり高いというイメージがある。地元にいられる環境を整備するのが何より大事ではないか。

【会 長】 イベントの創出についてなにか事例はあるか。

【委 員】 笠間では民間企業が数か月に1度ほどの頻度でチケット制の街中散策イベントを行っている。地元の飲食店も協力して30分～1時間程度、3軒くらいのまわれるイメージのイベントを行っている様子。

【委 員】 東海村に住んでいるのでその状況をお話すると、東海村の人口は若干の微減傾向ではあるが、他の市町村に比べれば緩やか。東海村の場合は医療費を無料にするなど、若い世代に入って来てもらい、東海村の魅力、町の魅力を伝えながら持ち家を促進してもらおう。そうして家が建つ。これを石

岡でやる場合、財政も考えなければならないが、いかに 20 代～30 代の小さい子供をもつ世代を取り込むかが大事。石岡に住んでもらって持家を促進する。持ち家を促進すれば石岡から通勤するようになる。そういう施策も考えていく必要がある。持ち家促進の材料が居住面なのか医療面なのかはわからないが、「こういう事をやっている」と発信していくと、目を向けてもらえると思う。

【会 長】 持ち家政策というのは内需、経済効果がとても高い。政府が発表している経済指標で一番重要なひとつが内需で住宅着工件数となっている。様々な職業の人が関わるのでとても潤う事になる。投資しても回収できる事例。高萩市の例をあげると、工業住宅公社が造成した建物に入居すると 100 万円の住宅補助がでる。次の課題はそれを市全体に広げていく。このような「石岡市に住んで頂けるような政策」が必要ではないかというご指摘でした。

【委員】 課題の中で、地元就職という部分。高校生は学校にくる求人などで就職を探す事が多いと思うが、早い段階、例えば中学生あたりに地元の企業を知ってもらうなど、社会科見学等で早めに知ってもらう事も大事ではないか。

【会 長】 地元の社会科見学は実際に行っているのか？

【事務局】 担当の商工課にヒアリングをしたところ、高校二年生を対象に就職説明会・企業説明会を行っているとのこと。

【会 長】 結論から言うと遅いという事ですね。刷り込み効果を狙う。早期の段階から刷り込んでいく。そうするとロイヤリティが上がってくる。

【委 員】 何よりも若い人がいないことと、幼稚園保育園はたくさんあるが出入りが激しい。保育士や幼稚園の保育教諭がいない、いくら募集をしても集まらない。20 年くらい前は 1 名～2 名の募集に対して 100 人来た時代があった。そんな中、人を集めるために、卒園児が保育実習に行っている保育園にお願いするような現状。現在、私の施設でも半分くらいの職員が卒園児。その中でも何名かは東京へ出たいと言っている。なぜ地元に残らないのか？と聞いたところ、東京への憧れもあるが、石岡にいたら出会いも無く結婚できないからと言う。今私は土浦に住んでいるが、昔は土浦駅前が賑やかだった。今は寂しい、店もない。みんなシャッターが閉まっている。状況がひどくなる一方なのが残念。理想があっても財政的に厳しい。人がいないということは税金などの収入がないということ。やってほしくても石岡市も財政的な理由でできないこともある。川越は 30 年前はひどかったが今は良い。文化遺産がたくさんあったので盛り上がった。石岡は昔は人が多かった。土浦より賑やかだったと聞いていた。今は個人商店が閉まっ

ている。昔は正月も賑やかだった。今は郊外の大型ショッピングモールに集まる、個人商店は寂れてしまった。若い世帯がたくさん来てくれないといけませんが、そういう世代にはつまらない（町だ）と言われる。子どもが遊べるような施設が大事。若い人が集まるような施設がほしい。

【会 長】 保育士不足をどうするかという事に対して、一つのアイデアとして、市で基金を作って市の財政から補助を出す。石岡に拠点を構える方に対して何年か手当を支給し雇用を創出する。出会いの場について、現在はいばらきサポートセンターと連携して県で行っている。これを石岡市でやる場合、入札制度で民間企業に委託するというやり方もある。中心市街地活性化について、石岡の財産である街並み、看板建築等のブラッシュアップ。あとは空き店舗をどうするか？という視点。イオンの誘致は難しい。そうするとどんなものを呼ぶのか？ということを考える。子どもの遊び場をどのように作っていくか、ということ。ひとつの提案としてはラウンドワンを誘致するかという話がある。水戸は誘致に動いたが失敗した。そこで県にひとつ、コストコと同じように空いているところに誘致するという流れ。若い世代を集める。そうすると若い世代で結婚した人が今度は子どもを連れてくるということにつながるのではないかと思う。

【委 員】 先ほどの持ち家促進という話の中で、住宅着工件数が増えると経済効果が高いという話があった。他ではなくここ（石岡）を選んでもらうためには、ここならではのものをアピールする必要がある。八郷の場合「移住したいが住む場所が見つからない」という声が多い。空き家問題もあるが、空き家とのマッチングがうまくいかない。移住したい人のお試し暮らし用の賃貸住宅にするために空き家をリフォームするなら補助を出すとか、空き家の持主に対する補助を出す。住宅を売る・買うという話になるとハードルが高い。田舎暮らしがしたい人に対して新築の住宅は必要ない。移住者のニーズを把握する事も大事。プランを提示するだけなら予算もそんなにかからない。貸出用のリフォーム費用を補助、賃料収入が始まったらそこから返済していくなどのやり方はどうか。若い人・新しい人が入ってくる可能性も高くなってくる。空き家の近隣に対する影響もある。イメージ良くアピールしていけたら良いのではないか。

【会 長】 政策で落とし込むには定住の政策パッケージを作るべきだという意見。具体的には住宅リフォームの専門の部署を設けてアドバイザーを入れるなど。そうすると地域のメンバーも関われる。地域おこし協力隊にプロジェクトを作ってもらえばいいのかなど。政策パッケージとして横断的に作りこみをしないと難しい。初期投資が大変だが1回作ってしまうとあとは更新するだけ。成功しているところはここがシームレスで継ぎ目がなくて

きている。プロモーション活動，移住者向けのシンポジウム等，ここ（石岡）でやっても人は来ない。発信するのは東京から。移住するターゲットを絞る事が重要。マンパワーとしては地域おこし協力隊を上手く使われたらいいのではないかと思う。

【委員】 若者は学習意欲旺盛である。息子は都内の病院に就職した。都内の病院では，教育をしてくれる・勉強の機会を提供してくれるから。山梨大学の先生とか筑波大学の先生を呼んでの勉強会に参加した。このように，こちらが行くのではなく先生をお呼びして石岡などで勉強会をするのが良いと思う。学校について，常盤大学が数年前に夜間大学を作ろうという話があったが，それもいつの間にかなしのつぶて。水戸の北水会記念病院がリハビリの学校を作った。県外からも生徒がきている。北水会はグループで作っている。いろいろな就職の形がある。八郷高校の跡地に朝鮮学校を作ったが，医療従事者のための学校のイメージがあったが，人が集まらなかった。医療従事者だけではなく一般の人も勉強できる学部を作ったり，大学といわなくても専門学校など……教育の場があると人が集まるのではないか？若者や高齢者も……勉強したいひとはたくさんいると思うのでそういう場を広げてほしい。

【会長】 学校を市でやるのは難しいが，学校を誘致する。例えば土地を提供して無償 30 年～50 年の借地，借款契約を結ぶ。建物を建てる場合は一部補助をするなど。高萩は明治大学の誘致をしていた。土地を無料で貸して，建物の費用は最大 1 億円負担するなどの計画があったが，震災でなくなった。そのかわり名秀学園日立高校が旧高萩工業高校にきて，現在は生徒や指導者が寮を作って 250 名増となった。このような学校誘致の例は市のリスクが少ない。距離が近いので大量効果は望めないが，交流人口，中間人口は増えるなどの効果がある。また委員の発言にあった学びの機会の創出にもつながる。持ち出し少なく，あるものを活かす誘致・補助などがあるだろう。

【委員】 私は高浜周辺に住んでいるが，資料 1 の 7 ページを見ると高浜地区は人口が減っている。高浜地区では毎年文化祭，運動会を毎年やっているが，若者が参加するような競技がなくなっている。若者が減っている。数年後には小中学校がなくなる。どんどん高齢化が進んでいくのではないかと皆嘆いている。先ほど委員から話が出ていたが，資料 1 の 32 ページの通り，空き家が相当数増えている状況がある。お年寄りが亡くなるとみな空き家になっている。お子さんがいるが戻ってこない。どんどん空き家が増える。石岡市でも空き家バンクをやっているようだが，どのようになっているのかわからない。空き家に若い人が住める様な状況を作る，誰かに貸すにし

でもきれいに整えるなど、急いでやらないとどんどん加速してしまう。空き家は1年間閉め切って留守にしていたらシロアリが喰ってしまい、全改築が必要な状況となってしまう。それが解決すれば人もくるし、もしかしたら若い人も増えるかもしれない。即座に実施していかねばならない問題だろう。

【会 長】 役所で出来ることには限りがある。厳しい状況はある。これは一つの案だが、出会いの創出や空き家の活用について、どこかに委託することを考えてはどうか。行政は事業管理を行い、指定管理を行い、民間事業者ができないところをカバーするというやり方。

空き家バンクはどういう状況か。

【事務局】 登録は数件、成約も1件という状況。

【委 員】 八郷地区の寺の住職をしている。地元の農村地帯の檀家さんが多く、話を聞くと家族が都内に転居してしまい、誰もいなくなっている、という悩みが多い。移住者のコミュニティにも参加しているが、地元農家の方々と、八郷が好きで移住してきた方々との対比がある。好きで移住している方はやる気が強いが、地元で長くいる方は現状を憂えているのみである。息子が結婚していないなどの話もある。昔はお見合い結婚が多かった。最近では燻がられる。プライバシーの問題、他人に介入されたくないと言う問題もあるが、現代的な感覚のお見合いなどの出会いの場の創出が必要なのではないか。

八郷地区は芸術やパラグライダー、有機農業がやりたい方などが移住してきている。このように特色をもったアピールをしていくのも一つの方法。また健康について、いま暮らされている高齢者についても運動・日光浴・入浴といったヘルスケアも必要なのではないか。

【会 長】 お見合いについては、インセンティブを委託業者に与える、成功報酬型はどうか。そのような形にしないと成果が上がってこない。もし委託等を考慮するならばそういった面も考えていく必要はあるのではないか。

【委 員】 いばらき出会いサポートセンターについて。小美玉にあったが、出会いの場に出て行くのがそもそも難しい。設けられた出会いの場に対する抵抗感があるという意見が多い。テレワークをされている方から、茨城県に良い場所はないか、という話があった。交通の便が良い場所という事で茨城という候補が上がった。その際に八郷を勧めたがあまり刺さっていない。移住者向けにうまくアピールしていく事が必要。

【会 長】 最近の若者は出会いの場は出会い系サイトなどのネットを利用しているようだ。移住者のモデルについては、笠間の芸術の森。県内ではモデルケースになるのではないか。

【委員】 八郷の話。軽井沢にはブランドがあるが、それと八郷は何が違うか、ということ考えたことはあるか。軽井沢も同じような田舎だが別荘地になっている、そういった立ち位置が変わってしまった理由など考えていく必要があると思う。良い環境があるのになぜ上手くいかないのかということを考えていく必要がある。近隣市町村と比べ、教育の面で差が出ているように感じる。あれもこれも、は難しいがなにかに特化することはできるのではないか。求人は年々増えている一方で、生徒数が減り、進学希望者が増えている。誘致する企業も考えなければならない。工場や事業所をただ呼ぶだけでなく、大学卒業生もつけるような本社勤務の職場などを創出していく必要があるのではないか。工場などは人件費の安い高校生を雇いたいと思うところだが、学卒生も入れるような企業がないと若い人は入ってこないと思う。

【会長】 高卒型の企業誘致ではなく、大学卒の人達が就職する研究型の企業誘致が必要という話だが、これは非常に難しい。代わりに何ができるかというところ、筑波大学、筑波技術大学のサテライトキャンパスやインキュベーションセンターを誘致する。誘致するために何をやるか？筑波大学、石岡市の連携協定を締結し、筑波大学の学生を誘致しながら出会いの場を創出するなどの可能性を考えてみてはどうだろう。

【委員】 仕事・学業優先でそうなっているところだとは思うが、昨今は都市部への一極集中が叫ばれている。また地域医療も医師・看護師不足が深刻化している。給料・交通の便の良いところに集まっているのだと思う。子育て環境についても、国の政策で補助金をだしているが、待機児童の課題はある。石岡市についても保育園・幼稚園に入れられない方がいるような状況である。マッチしていない状況でもある。子供が欲しいという希望があっても、状況的に難しい。収入は上がっても暮らしは良くなっていないといった話がある。これは支出が増えているという事であり、子育てには大変お金がかかる、共働きが必須という状況である。国からの補助金など充実させていかなければならない。空き家についてだが、石岡市の空き家バンクについて登録したいという人がいるが、貸したい人と借りたい人のギャップが大きい。貸主は長年住んだ家をいじってもらいたくないなどの感情があり、借主はリフォーム希望などの齟齬が発生している。登録者も少ない。市が関わると最終的に貸さない、相対の方が上手くいっているといった話を良く聞く。時代の流れはあると思う。常磐線の駅を持っているのに沈んでしまっている。

【委員】 私が住んでいる八郷地区には、つくば山麓に温泉施設があったり、フラ

ワーパークがあったり、ハングラライダーがあったりかなり大勢の方が遊びに来る、住みたいという需要はあるが、提供の場が少ない。良い土地があったらと思って農業振興地域となっており、規制解除の申請をして1年、さらに宅地申請で1年といったような形で、住みたいと思って2年も待てない。宅地になるような土地は農業振興地域からはずしていく必要があるのではないか。前にもそういう提案をして多少は改善されたが段々となあなあになってしまっている。集落内の耕作放棄地については農業振興地域からはずす、しっかりとした農地は残す。メリハリをつけて集落内の活性化を図るべき。家が建てば活性化する。病院がないので子育てができないような場所である。子育てしやすい環境を作らないと難しいのではないか。子育てが終わったら戻ってくるかもしれないが、その間は空洞化し人口は増えない。考えるだけでなく実行していく必要があるのではないか。

【会 長】 そのほか何かよろしいですか？

【委 員】 空き家バンクの登録が数件しかないという話だが、少なくて驚いた。これは広報活動がどうだったか、それともなにかの規制があるのかなど、PDCAを回しながら実施していく必要があると感じた。

【会 長】 私からは4点。役所はスーパーマンではないので何でもできるわけではない。では誰が何をやるかという話になる。

1点目。役所ではオーバーワークが発生し、職員のメンタル疾患が増えている。さらに事業を増やすのは難しい状況。そこで、事業の主体を民間に委託する、民間業者を活用していくという提案。

2点目、内閣府に依頼する必要があるが、“特区”の必要性。

3点目、サテライトキャンパス施設が難しいならば大学と連携しながらR&D（リサーチ&デベロップ）のような施設を誘致する。

4点目、祭りの集客をさらに増やすということ。国内だと取り合いになるので外国人の集客を狙う。民家に泊ってもらうなど、旅行会社とタイアップし、滞在型の外国人向け商品パッケージを開発したらどうか。最初から100点を目指すのではなく少しずつ達成させていくのが良い。

【会 長】 本日欠席の馬渡副会長よりコメントを預かっているので、発表する。

1点目。地域コミュニティの維持は困難。地縁だけでなく重層的なコミュニティを作っていく事が求められる。維持にこだわる必要はない。

2点目。社会調査の手法を熟知した職員を作っていく必要がある。既存の研修では限界がある。他の自治体と横並びではいデータ分析官がビッグデータの事態には重要ではないか。つまり専門の分析官が必要だということ。

3点目。空き家問題はどの地域でも抱える問題ではあるが、今後石岡市でもどんどん増えていくのは看過できない現状。

4点目。2040年問題を見据えた総合戦略策定が求められる。増田元岩手県知事が出した本。それを踏まえた総合戦略の策定が必要になる。

2) まち・ひと・しごと創生石岡市人口ビジョンの見直しについて

【事務局】 資料2説明

【会 長】 数値が思ったより低く出ている。転出が多い時期があった時の数字。今は回復している。市としての目標は前回たてた6万人でやっていきたいと思っている。

特にご意見がなければ、この目標については維持と言うことにしていきたい。

(4) 閉会

以上